

幸手市立さくら小学校 学力保障グランドデザイン

幸手市の到達指針

【全国学調】 【埼玉県学調】

- 平均正答率 ●学習方略・非認知能力の平均値
- 学力が伸びた児童生徒の割合

本校の学力の現状と考察

現状	考察
①全国学調 (平均正答率) 国語よりも算数に課題が見られた。	算数において、少人数指導を中心とした個に応じた指導を充実させ、児童の学習を丁寧に見取り、粘り強く学習に取り組めるようにする。
②埼玉県学調 ・学習方略・非認知能力県平均と同程度の水準。 ・学力の伸び 特に算数に課題が見られる。また小6の学力の伸びがやや小さい。	学習方略・非認知能力は努力調整方略に課題のある学年が見られる。対話的な学びの充実を図り、児童の非認知能力を高めていく。
③幸手市統一学力調査 (平均正答率) 学年が上がるにつれて、平均正答率が下がっていく傾向がある。	学年ごとの学習内容を着実に習得させる。授業において、具体的操作や学習言語の定義化を十分に行うと共に習熟の時間を確保し、個々の習熟を見届ける。

ふるさと幸手を愛し、志に生きる児童を育みます。

学校全体での取組



基礎的・基本的な学習内容・学習方法の定着

「ねらい・課題・まとめ・振り返りのある授業の実践」、「習熟の時間と反復学習の時間の確保」、「児童の一人一人の学習状況の丁寧な見届け」の3点を全教職員共通理解事項として、児童の指導にあたる。

学力向上及び家庭学習充実週間の設定

学力向上週間及び家庭学習充実週間を年間4回実施する。実施期間中に児童の学習の定着をより一層図れるよう、自主学習ノートの取組を見取り、充実させていく。また、県や市の作成した問題集やMEXBETのCBT問題から、児童の課題にあった問題に学校と家庭で繰り返し取り組ませる。

学校ICTの積極的活用

低学年からタブレットPCを活用するための素地を養い、授業で効果的に活用していく。特に3年生以降は、タブレット端末を用いて、自分の考えをまとめたり、表現したりする学習活動を通して、ICTの活用能力を高めながら、個別・最適な学習や協働的な学習を実践する。

落ち着いた学級づくり



教職員間の連携体制の構築

管理職、学年、教科担任等、複数の教員で各学級の雰囲気や児童個々の様子を見守り、学級や児童個々に起こりうる問題の未然防止及び早期発見・早期対応を図る。また、定期的に課題を抱える児童の情報については、校内全体で情報を共有し、その児童に対して組織的に対応していく。

「自己有用感」を育てる学年・学級経営

「ほめて、認めて」を合言葉に担任はもちろん、学年・学級をまたいで、全教職員が、児童のよさや頑張りを認め、褒めることで児童の自己有用感を高めていく。

道徳教育を基盤とした規律ある態度の育成

毎週の道徳科の授業実践と別業を生かした道徳教育の充実を通して、児童の心の成長を促し、規律ある態度など基本的なモラルや善悪の判断力、親切・思いやりの心を育てていく。

学びを深める授業づくり



令和の幸手スタンダード授業Vの徹底

市教委から示された「令和の幸手スタンダード授業V」に沿って、ねらい・課題・まとめ・振り返りのある授業を実施していく。また、こうした授業スタイルを通して、指導と評価の一体化を図り、指導方法の工夫改善を推進していく。

体験的・問題解決的な学習の積極的な実践

体験的・問題解決的な学習（探究学習・PBL）を積極的に実践していく。そのために、体験的な学習を効果的に年間計画に位置づけ、着実に授業を実践していく。

複数名の教師の指導による算数授業の充実

算数科を中心に習熟度別少人数指導やチームティーチングといった複数教員での指導体制をし。指導に当たる教員が連携し、児童の習熟度に応じた授業を展開したり、児童の一人一人のつまづきの早期発見・早期対応、学習の見届けを着実に図ることによって、基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させていく。

学校間連携・家庭連携



義務教育課程9年間を見据えた連携

幸手中学校との道徳教育を中心とした連携（合同研修会等）を通じて、児童の学力向上の基盤となる非認知能力の育成を図ると共に、小中間の接続を滑らかにし、児童が進学後もギャップを感じることなく学習に打ち込めるようにする。

学校と家庭との連携・協働

学期ごとに授業公開、個別面談及び懇談会、教育相談日の機会を設定し、児童の伸びや課題について共有し、学校と家庭の役割をそれぞれ果たせるようにする。また、さくらサポーターの制度を充実させ、家庭・地域の方々と協働しながら、教育活動にあたる。

家庭との協働による家庭学習の習慣化

個別面談期間を家庭学習充実週間と位置づけ、さくらっ子ノートコンテストを実施（年3回）し、主体的な学習への意欲付けを図る。充実したノートを公開したり、クラスノートを活用したりすることで、学習方法の幅も広げる。